

みやぎらしい協働教育推進事業

家庭・地域教育力の向上と 学校教育の充実を目指して



平成21年度文部科学省委託事業

学校支援地域本部事業
実践事例集



宮城県教育委員会

はじめに

本県では、平成17年度から地域教育力の向上と学校教育の充実を目指し「みやぎらしい協働教育推進」を展開しております。これまで、県内各市町村の御理解と御協力をいただきながら、地域と学校をつなぐ仕組みをつくり、社会の中でたくましく生きる子どもたちを地域全体で育む特色ある教育活動を実践してきたところです。

県生涯学習課としては、実践市町村を積極的に訪問し、協働教育が安定的・継続的に進められるよう支援に努めています。また、県政だよりや県政テレビ等により広く普及啓発を続けております。平成20年度からは、国の新たな委託事業として、中学校区に地域全体で学校を支援する体制をつくる「学校支援助地域本部事業」が創設され、現在13市町17本部で実践されています。この事業は県及び教育庁重点事業に位置づけており、学校・家庭・地域が互いに適切な役割分担と協働を基本にしながら、相互に信頼感を高め、協力し合いながら学校教育と地域教育力の向上を目指しています。

この実践事例集は「みやぎらしい協働教育推進事業」の一形態として位置づけている「学校支援助地域本部事業」の実践活動において、組織の立ち上げ、事業の進め方、活動の工夫、成果と課題を活かす手立てなど、これからの取組を検討している市町村や未設置市町村において、地域に即した協働教育振興の一助として、また、学校の教育活動にも活用できるようにまとめたものです。

さらに、平成21年3月に発刊いたしました、平成17～20年度「みやぎらしい協働教育推進事業」のまとめとして作成いたしました「家庭・地域教育力の向上と学校教育の充実を目指して」と併せて御覧いただきますと本県が推進する「みやぎらしい協働教育」について、より一層御理解を深めていただけるものと存じます。

最後になりましたが、本冊子を発刊するにあたりまして、実践事例を提供していただいた各小中学校、及び実施市町村に対し、衷心より感謝申し上げます。

平成22年3月31日

宮城県教育庁生涯学習課

課長 青木 健一

目次

◇ はじめに

宮城県教育庁生涯学習課 課長 青木 健一

1 「みやぎらしい協働教育推進事業」について 1

2 学校支援地域本部事業の概要

- 1 事業のねらいと仕組み..... 2
- 2 学校支援地域本部事業コーディネーターの役割..... 3
- 3 学校支援地域本部事業実施市町村一覧..... 4

3 学校支援地域本部事業実践事例（実施市町 所属事務所）

- 蔵 王 町（大河原教育事務所）平成20年度～実施..... 5
- 村 田 町（大河原教育事務所）平成20年度～実施..... 7
- 白 石 市（大河原教育事務所）平成21年度～実施..... 10
- 大 河 原 町（大河原教育事務所）平成21年度～実施..... 11
- 川 崎 町（大河原教育事務所）平成21年度～実施..... 12
- 大 和 町（仙台教育事務所）平成20年度～実施..... 13
- 富 谷 町（仙台教育事務所）平成20年度～実施..... 15
- 七ヶ浜町（仙台地域事務所）平成21年度～実施..... 19
- 多賀城市（仙台教育事務所）平成21年度～実施..... 20
- 大崎市松山地区（北部教育事務所）平成21年度～実施..... 22
- 色 麻 町（北部教育事務所）平成20年度～実施..... 24
- 栗原市瀬峰地区（北部教育事務所栗原地域事務所）平成20年度～実施..... 26
- 登米市東和地区（東部教育事務所登米地域事務所）平成20年度～実施..... 28

4 協働教育の定着のため方向性.....30

5 資料編

- 「学校支援地域本部事業」活用の利点..... 32
- 学校支援地域本部における既存組織の活用例..... 33
- 宮城県地域と学校をつなぐコーディネーター養成研修 講演資料..... 34

1 「みやぎらしい協働教育推進事業」について

1 みやぎらしい協働教育とは

● 協働教育とは

- 家庭・地域と学校が協働して実施する教育活動です。
- 地域と学校をつなぐ仕組みをつくり、両者の良好な関係を広げることにより、学校教育と社会教育の一層の充実を図る一つの手法です。
(協働すること自体を目的とした教育ではありません。)

● 協働とは

- 一歩進んだ連携・協力の「カタチ」
- 複数の主体者（家庭・地域・学校・行政）が目的（子どもの健全育成に向けて）を共有し、各々の特性・能力を活かしながら、互いを尊重しつつ、対等な立場で協力し合い一緒に働くことです。

● みやぎらしいとは

宮城県が推進する協働教育の特徴として、県内各市町村の政策や重点施策などの公の方針のもと、地域と学校をつなぐ仕組み・組織をつくり、家庭・地域と学校の協働の取組を行政がしっかりと支えていきます。

2 事業の背景

- 学力・体力低下、いじめ、不登校、生活習慣の乱れ、安全確保、青少年の凶悪犯罪、ニート等、子どもたちを取り巻く新たな教育課題が山積しており、社会の中でたくましく生きる子どもたちを地域全体で育む協働の取組が必要です。
- 都市化、核家族化、少子・高齢化等、社会環境の変化による地域教育力の低下が指摘される中、家庭と地域の教育力の向上を図るために協働の取組が必要です。さらに、公民館等の社会教育施設等にあっては、社会教育を通じて得た技術や知識を活用して、子どもの健全育成に貢献する取組が必要です。
- 新たな教育課題への対応等で多忙を極める学校に対しての地域支援と、学校教育の更なる充実を図るために協働の取組が必要です。
- 平成20年度県民意識調査では、県が策定した「宮城の将来ビジョン」で掲げる33の取組みの満足度に家庭・地域・学校の協働による子どもの健全育成が上位にあげられ、取組の充実が県民から強く期待されている。

3 事業のねらい

社会の中でたくましく生きる子どもたちを地域全体で育むために、地域と学校をつなぐ仕組みをつくり、協働した教育活動を展開するものです。その中で、地域教育力の向上と学校教育の充実を目指します。

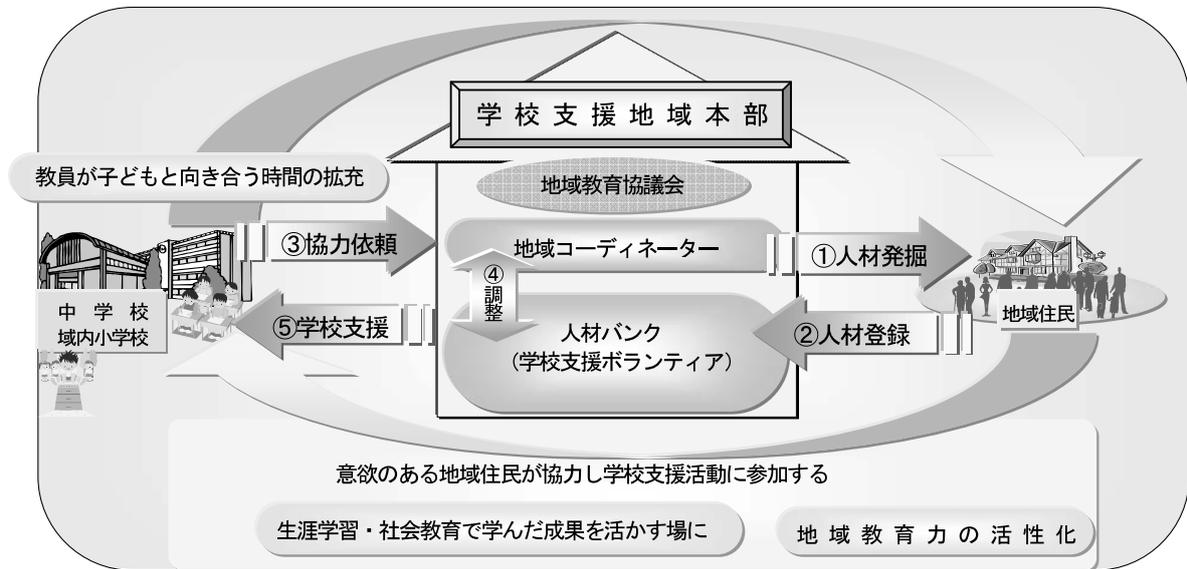
4 事業の構成

- 協働教育振興事業：協働教育推進気運の醸成（会議・研修会の開催、普及啓発・情報提供）を図ります。
- コラボスクール推進事業：協働教育モデル実践の展開（県内25市町35小中学校）
- 起業教育推進事業：協働教育モデル実践の展開（7市町7中学校）
- 学校支援地域本部事業（委託事業）：中学校区に地域全体で学校を支援する体制をつくります。

2 学校支援地域本部の概要

1 事業のねらいと仕組み

- (1) 学校支援地域本部は中学校区ごとに設置します。(学校が事務局を担うことはありません。)
- (2) 本部では、人材バンクを設置し、学校からの依頼を受け、学校支援ボランティアを学校に紹介します。



事業名	学校支援地域本部事業（委託事業）
事業目的	中学校区に、地域全体で学校を支援する体制をつくり、地域住民の積極的な学校支援活動を通じて教員の負担軽減を図るとともに、家庭・地域・学校・行政による協働教育の振興を図る。
事業費	全額国庫負担
事業期間	平成20年度から平成22年度（3ヶ年事業）
事業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 事業の形態 国から県への委託（県から市町村または市町村実行委員会へ再委託） 2 学校支援地域本部事業の枠組み <ol style="list-style-type: none"> (1) 県事業 <ol style="list-style-type: none"> ① 県内市町村への普及啓発・広報 ② 普及啓発研修会等の開催 (2) 市町村実行委員会・学校支援地域本部設置(市町村等へ再委託) <ol style="list-style-type: none"> ① 市町村実行委員会の設置 <ul style="list-style-type: none"> ○ コーディネーターの養成 ○ 学校支援ボランティアの養成 ○ 市町村内の学校支援事業の企画立案 ② 学校支援地域本部の設置（中学校の余裕教室または公民館等に設置を想定） <ul style="list-style-type: none"> ○ コーディネーターの配置 ○ 人材のコーディネート及び人材バンクの設置・活用（学校支援ボランティア） 3 活動例 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習支援：授業等において教員を補助 ○ 部活動指導：部活動の指導する教員を支援 ○ 環境整備：図書室や校庭など校内環境整備 ○ 子どもの安全確保：通学路における安全指導等 ○ 学校行事等の支援：会場設営や運営等に関する支援等

2 学校支援地域本部事業コーディネーターの役割

地域コーディネートの流れ

① こんなことしたいなあ!

例えば…
・紙すき体験をしたいのですが?

② だれか、こんなことやあんなことできませんか?

例えば…
・紙すきを教えてくれる方はいませんか?
・紙すきの材料・道具を貸して下さる方は?

④ これはどうですか?

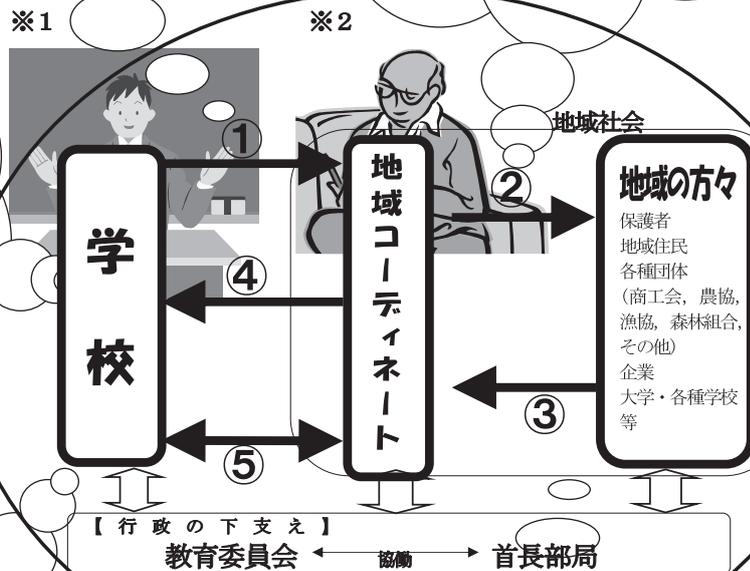
例えば…和紙の材料を栽培して紙すきをしてハガキを作り、市のお祭りで販売してみたいかが…

⑤ よし一緒にやろう!

例えば…
総合の学習で
・地域の和紙を作り、販売して売り上げを寄付するまでの体験をしよう。

③ こんなことならできそうだよ。

例えば…
・和紙製造組合で教えてくれるよ!
・紙すきの材料を植える場所がありますよ!
・せっかく作るんだから紙を売ったらおもしろいね!



学校支援のコーディネーター

従来の地域と連携した学校の取組との違い

<従来の連携>…学習計画をもとに教師が、地域素材・人材・関係機関探し等、交渉・依頼のすべてを個別に行っています。

<協働教育>…地域の組織が学校の要望と地域の状況を合わせて検討し、ひと、もの、こと等をつなぐコーディネートを組織的に行い、地域社会と学校が協働した教育活動を円滑に行えるよう、市町村の公の方針のもと行政が下支えします。

図 ※1) 学校の窓口としてのコーディネーター【教員】 ※2) 地域の窓口としてのコーディネーター【行政職員・地域住民・保護者等】

3 学校支援地域本部事業実施市町村一覧

(H21.12.1現在)

市町村名	実行委員会名	学校支援活動(回)							主な支援活動	地域 コーディネーター (人)	学校 支援ボランティア (人)	対象学校数				
		学 校 支 援 本 部 数	学 習 支 援 活 動	部 活 動 指 導	環 境 整 備	登 下 校 安 全 指 導	学 校 行 事	そ の 他				小 学 校 数	学 校 名	中 学 校 数	学 校 名	そ の 他
白石市	白石市学校支援本部 実行委員会	1	4	3	5	5	4	3	学習支援、部活動支援、 総合的な学習の時間支援	1	100	2	福岡小 深谷小	1	福岡中	0
多賀城市	多賀城市学校支援 実行委員会	1	0	0	2	2	0	0	学習支援、部活動支援、 総合的な学習の時間支 援、登下校安全指導	1	100	1	多賀城東小	1	東豊中	0
登米市	登米市学校支援地域 本部事業実行委員会	1	5	1	6	4	6	1	キャリアセミナー、起業 教育、職場体験、郷土芸 能の伝承支援、英語・PC 授業支援、部活動指導、 学校行事の協力、環境整 備、清掃	1	129	3	米谷小 錦織小 米川小	1	東和中	1 米谷 幼稚園
栗原市	栗原市学校支援地域 本部事業実行委員会	1	2	1	2	2	2	2	伝承遊び指導、生徒会行 事支援、登下校パトロール	1	100	1	瀬峰小	1	瀬峰中	0
大崎市	松山地区学校支援地域 本部実行委員会	1	3	1	3	3	3	0	学校行事への支援	1	50	2	松山小 下伊場野小	1	松山中	0
蔵王町	蔵王町学校支援本部 実行委員会	1	4	4	4	4	4	4	学習指導、学校行事、クラ ブ活動、部活動指導、文 化的指導、体験活動支 援、道徳・総合的な学習の 時間の支援、相談活動等	1	500	3	円田小 平沢小 永野小	1	円田中	0
大河原町	大河原町学校支援事業 実行委員会	1	5	2	5	5	5	0	学習支援、部活動支援、 総合的な学習の時間支 援、登下校安全指導、読 み聞かせボランティア	1	150	3	大河原小 大河原南小 金ヶ瀬小	2	大河原中	0
村田町	村田町学校支援協議会	1	7	2	7	7	7	0	環境整備支援、農業体験 学習支援、職場体験学習 支援、登下校安全指導、 スポーツ活動支援、地域 学習支援、食育支援、書 写指導	1	100	5	村田一小 村田二小 村田三小 村田四小 村田五小	2	村田一中 村田二中	0
川崎町	川崎町学校支援事業 実行委員会	1	7	1	7	7	7	0	学習支援、部活動支援、 総合的な学習の時間支 援、登下校安全指導、読 み聞かせボランティア	1	100	6	川崎小 川崎二小 川内小 砂金小 前川小 青根分校	1	川崎中	0
七ヶ浜町	七ヶ浜町学校支援 実行委員会	1	3	1	2	3	0	0	学習支援、部活動支援、 総合的な学習の時間支 援、登下校安全指導、読 み聞かせボランティア	1	30	2	松ヶ浜小 汐見小	1	向洋中	0
大和町	大和町学校支援 実行委員会	1	5	1	5	5	5	0	総合的な学習の時間の 支援、読み聞かせボラン ティア、学校図書環境 整備、登下校の安全指 導、学校行事支援	5	80	4	吉岡小 吉田小 鶴合小 落小	1	大和中	0
富谷町	富谷町地域と学校を つなぐ実行委員会	5	12	0	12	11	10	0	伝統芸能伝承、茶づくり、 子どもまつり支援、あいさ つ運動支援、マラソン大会 安全指導、高齢者と交流 事業、弁論大会支援、地域 公園清掃支援、環境づくり 支援、図書環境整備、読み 聞かせボランティア、文化 祭支援、夏祭り支援、合唱 指導、町民歌指導	5	3350	7	富谷小 富ヶ丘小 日吉台小 東向陽台小 あけの平小 成田東小 成田小	5	富谷中 日吉台中 東向陽台中 富谷二中 成田中	0
色麻町	色麻町協働の まちづくり実行委員会	1	3	1	3	3	3	3	防災・防犯指導、環境整 備花いっぱい運動、町づ くり、教育支援、登下校 安全指導	1	100	2	色麻小 清水小	1	色麻中	0
		17	60	18	63	61	56	13		21	4889	41		19		1

3 学校支援地域本部事業実践事例

実施市町（所属事務所）



蔵王町（大河原教育事務所）

(1) 蔵王町学校支援地域本部事業の趣旨・目的

学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる協働教育体制を整えることを目的とし、以下の3点を掲げている。

- ① 地域住民が学校の教育活動に関わることで、多様な学びが増え、学力向上やコミュニケーション能力の向上など教育的な効果を高める。
- ② 地域の人的資源の活用を図り、生涯学習の成果を発揮する場とし、地域の絆づくり、地域教育力の向上の一助とする。
- ③ 地域の協力を得ることで、教員が子どもたちと向き合い、教育活動に専念する時間を確保する。



【第2回蔵王町学校支援本部実行委員会】

(2) 蔵王町学校支援本部実行委員会（蔵王町地域教育協議会）

町では、一つの地域本部で委託・実施していることから実行委員会と地域教育協議会を兼ねて設置し、事業の計画及び推進等の協議を実施している。

協議内容は、①実施計画②実施状況の報告③中学校区の学校支援地域本部事業についての指導・助言④町内の協働教育推進体制について⑤次年度実施計画⑥その他となっている。

町では第四次長期総合計画で「町民と行政の協働によるまちづくり」を目標としている。ならびに平成21年度蔵王町教育基本方針と重点施策の中で「学校と家庭及び地域社会との連携による生涯学習の推進」、「家庭・地域社会とともにつくる信頼される学校教育の推進」など社会教育・学校教育それぞれで学校・地域・家庭の協働を謳っている。また、学校においては協働教育担当者を位置づけ、校内の意見集約や地域コーディネーターとの連絡調整を担っている。年度末の際には、学校支援ボランティアを必要とする授業・行事等の有無や実施時期、必要人員等を予め調査し、次年度に反映できるよう実行委員会と学校で調整を行っている。

(3) 学校支援ボランティアの活動

- ① 学校名 蔵王町立平沢小学校
- ② 活動内容「蔵王の自然に親しみ「秋」を探そう！」

「ゆと森倶楽部（ホテル一の坊グループ）」の所有する栗林を活動場所に、栗やどんぐり、落葉など秋を探す活動を行った。ゆと森倶楽部は学校支援に団体登録をしており、活動前に行った栗林の下刈りの人員手配や送迎バスの無償提供など、人的な支援だけでなく、場所や物の支援もいただいている。同様の活動を永野小学校でも実施している。



【平沢小 ゆと森倶楽部 栗拾い】

児童は大きな栗を見つけるたびに歓声を上げ「お家におみやげができたよ。」「明日もやりたい!」と喜んで活動した。また学校からは、「蔵王の子どもでも栗拾いを経験する子は少ないので、いい体験ができた。」「拾った後についてもボランティアの協力で体験活動ができれば」との声が聞かれた。この活動は、総合的な学習の時間、図工などに位置づけて実施し、見つけた「秋」を使っただけの工作も行っている。児童の感謝の気持ちとして作品は、ゆと森倶楽部にも送られ展示していただいた。次年度はこの工作や栗の調理などについてもボランティアの指導を受けながら、さらに人と人のつながりをもった活動

にしたいと考えている。

(4) 効果と役割

① 地域コーディネーターの役割

- 学校及び地域巡回による情報収集とボランティア募集
- 町内を中心とした人材の発掘・登録活動
- 学校からの派遣要請・人材紹介等の援助
- ボランティア講習会の企画・実施
- 広報・情報発信活動
 - ・蔵王町学校支援本部のホームページの作成
 - ・ボランティア講習会チラシ，学校支援ボランティア・リーフレット作成
- 各種研修会への参加



【図書室整備ボランティア講習会】

② 人材バンクの状況（1月28日現在）

- 登録状況 ・団体登録12件 ・個人登録53名 ・稼働率69.2%
- 派遣実績 ・派遣数145件 ・人数334名
 - ・職場体験先紹介4件（52カ所）

③ 学校と地域へのアプローチ

学校訪問は、ボランティアの登録状況などの情報提供や要望の吸い上げを行うとともに、教員との意志疎通を図ることを一番のねらいとして必要に応じて実施している。地域については、別荘地で活動している音楽家・芸術家・有識者などを訪問し、直接お話をうかがいボランティア登録を依頼している。同時に町の既存の団体（婦人会，母親クラブ，グリーンツーリズムなど）や企業などの団体登録を積極的に進めている。

(5) 成果と課題

2年目を迎えコーディネーターの意欲的な働きかけによって、学校・地域から理解と協力をいただいた。各学校からの支援要請，ボランティアの登録数や活動実績の増加が示す通り幅広く中身の濃い支援を行うことができた。また企業や団体からの有効な情報提供などが学校での新たな活動に結びつく例もあり，今後も地域や学校を回り情報収集を積極的に行うことは有効である。



【遠刈田中 職場体験】

22年度の委託終了後，組織とともにこの事業をいかに地域に根付かせ，継続していくかが課題となる。また，現時点で学校からの支援の要望に対しては，100%対応しボランティアの派遣を行うことができているが，今後想定外の要望や人材・人数の依頼があった際に対応できるように，ボランティア登録の拡充とともに人材情報の把握により一層の努力が必要である。

問い合わせ先

〒989-0821 宮城県刈田郡蔵王町大字円田字西浦 5

蔵王町教育委員会生涯学習課内 蔵王町学校支援本部実行委員会

TEL：0224-33-2018 FAX：0224-33-2019

E-mail：shougaigakushu@town.zao.miyagi.jp URL：http://www.gozain.jp/gsbhp/gsb-index.html

村田町（大河原教育事務所）

(1) 村田町学校支援事業の趣旨・目的

本事業は、地域から「学校支援ボランティア」を募り、地域全体で学校の教育活動を支える取組である。地域の方々の特技や技能を生かしながら学校の教育活動の充実を図るとともに、生涯学習における「学習機会」や「生きがい」づくりの場としても重視し、学校・家庭・地域が一体となって「地域の学校」「地域全体で子どもを育む環境づくり」を目指す。

(2) 村田町学校支援協議会

事業全体を統括する機関。（各分野の代表者で構成）

- 事業全体の計画立案と評価
- 関係諸機関との協力体制の構築
- 学校支援推進委員会・事務局への助言
- 地域コーディネーター及び学校支援ボランティアの養成（研修会の実施）
- 人材バンクの整備
- 町民、関係機関・団体への広報・啓発活動



【学校支援協議会会長（教育長）挨拶】

(3) 村田町各中学校区学校支援推進委員会



【村田第一中学校区学校支援推進委員会】

① 村田第一中学校区及び村田第二中学校区にそれぞれ設置して本事業の推進にあたっている。

② 活動内容

- 協力関係の構築と情報交換（学校と地域間、学校間、地域間）
- 各校の取組の計画と評価
- 地域住民・保護者・学校職員への広報・啓発活動

(4) 学校支援ボランティアの活動

① 学校名 村田町立村田第二小学校 5年生

② 活動内容「昔ながらの米作り」

約10名のボランティアが、昔ながらの米作りを指導した。ただ体験させて終わるのではなく、ボランティアが昔と今の米作りの違いや、稲の成長について詳しく説明しながら、田植え、稲刈り、脱穀、精米まで一貫して取り組む充実した学習となった。地域の方への感謝の会「ライスパーティー」も実施した。



【ボランティアによる稲刈りの指導】

③ 学校教育の視点からの効果

- 学校だけでできなかったことが実現し、充実した教育活動が展開できる。
- 専門的な指導により本物の体験活動が実践でき、学習が深まる。
- 地域学習の一貫となる。
- 学校に対する地域の理解が深まる。
- 先生方は児童と接する時間を確保できる。

④ 児童の感想（感想文より抜粋）

- 一度に植える苗の本数、稲の刈り方や穂の数、脱穀機など、全て初めて知ることができました。
- 初めて米を育てました。今は便利な機械があるからあまり手間がかからないけど、昔はすごく大変だったことが分かりました。ボランティアさん本当にありがとうございました。
- 来年はおばあちゃんの田んぼで田植えや稲刈り、脱穀の手伝いをしようと思いました。

(5) 効果と役割

① 地域コーディネーターの役割

- 学校と学校支援ボランティアの連絡調整
- 学校支援ボランティアの人材発掘
- 学校・地域・保護者への広報・啓発活動

② 人材バンクの状況

個人登録77人 団体登録5団体44人 合計121人

③ 学校と地域へのアプローチ

学校からの支援要請の後、地域コーディネーターが学校支援ボランティアとの連絡・調整を行い、学校と地域ボランティアを結び付けていく。打合せの場の設定や支援内容の吟味と調整を行い、学校や学校支援ボランティアが安心して支援活動が展開できるようにしている。特に学校へは、学校の窓口である協働教育担当者と随時連絡を取り合い、協働教育推進を図る。



【ボランティアによる書道の指導】

④ 苦労した点

- 学校の要望とボランティアの要望をすりあわせながら、教育活動を作り上げる調整作業。
- 要望にあった人材が学校支援ボランティアとして登録されていない場合の人材確保。
- 学校及び地域への本事業の周知と理解。

⑤ ボランティアの感想

- 毛筆指導：多くの地域の人との出会いにより、子どもたちの学びの場を広げたいものです。
- 庭木の剪定：母校でもある学校のため、技術専門学校で身につけた剪定技術を生かし、今後もできる限りのボランティアを頑張っていきたいです。
- 奥州藤原氏の学習指導：わずかな支援でも、何らかの一助となることと思って活動しました。
- プール清掃：子どもたちや先生方から「ありがとうございました」と喜んでもらいとてもうれしかったです。大変よい汗をかきました。

(6) 成果と課題

① 成果

- 環境整備や学習指導、安全支援など幅広く支援できた。
- 学校支援協議会及び推進委員会、各校の協働教育担当者会を立ち上げ、組織的に活動した。
- 学校支援だよりの発行や広報誌の記事掲載などを通し、協働教育の周知と啓発に取り組んだ。
- 社会教育委員や体育協会、社会福祉協議会などへの説明を行い、組織間の協力体制をつくった。

- 行政と連携し「水やゴミの学習」,「縄文土器を使った芋煮会」など出前講座的な支援もできた。
- ボランティア研修会を実施し,ボランティア間の交流を深め,学校や児童・生徒の理解,ボランティア活動に関する意欲の向上を図ることができた。

② 課題

- ボランティアの確保と支援体制の整備
- 学校へ支援内容の具体的な提案と支援内容の拡充
- 支援技術の向上を目指した講座や研修会の開催
- 各組織間の連携

③ 今後の事業展開について

支援の「充実」と「継続」をキーワードに,上記の課題解決を目指した手立てを考案し展開していく。



【学校支援ボランティア研修会】

問い合わせ先

〒989-1305 宮城県村田町大字村田字西田28

村田町教育委員会事務局 社会教育班

TEL : 0224-83-2023 FAX : 0224-83-3385 URL : <http://www.town.murata.miyagi.jp>

白石市（大河原教育事務所）

(1) 白石市学校支援地域本部事業の趣旨・目的

学校・家庭・地域・行政が連携し、地域ぐるみで子どもを育てる協働教育体制を整える。

- ① 学校教育のさらなる充実
- ② 学校、教員の負担軽減
- ③ 生涯学習社会の実現、地域社会の活性化



【白石市学校支援地域本部実行委員会】

(2) 白石市学校支援地域本部（福岡中学校区）実行委員会

協働教育体制を整えることを目的として実施する「学校支援地域本部事業」の計画及び推進等について協議する。

（協議内容）

- 学校支援地域本部事業の実実施計画・実施状況の報告に関すること。
- 学校支援地域本部事業についての指導・助言に関すること。
- 次年度実施計画に関すること。

(3) 白石市地域協議会（福岡中学校区）実行委員会と兼ねる

（役割）「協働教育」の考え方については、市の教育重点事項「学校教育の充実 学校・家庭・地域と連携した開かれた学校づくりの推進」として、地域の人材（学校支援ボランティア）を活かした体験活動の推進が掲げられており、各学校の努力点としても取り上げられている。



【学校支援地域本部事業リーフレット】

(4) 成果と課題

① 成果

この制度による学校支援ボランティアを募集中であり、現在のところ学校支援ボランティアの効果的な活用について検討中である。

② 課題

- ボランティア募集登録への抵抗感の軽減を図る工夫をする必要がある。

- 地域住民への学校と学校支援地域本部事業の理解と連携を進めることが必要である。
- 本事業に対する教職員の意識改革とともに学校支援ボランティアの受け入れ態勢の整備が必要である。

③ 今後の事業展開について

- ボランティア募集をさらに呼びかけ、「人材バンク」を作成し、学校に提供する。
- 各学校の教育計画に「協働教育」を位置づけ、学校の担当者を校務分掌に位置づける。また、各学校に学校支援ボランティア控え室の設置をする。
- 各学校の担当者は校内の意見・要望等を集約し、事務局と調整会議を持つ。
- ボランティア研修会（オリエンテーション的なもの）を開催し、スムーズな導入を図る。
- 学校のニーズを調査し、学校支援ボランティア登録を呼びかける。

問い合わせ先

〒989-0292 宮城県白石市大手町1番1号 教育委員会（学校教育課）

TEL：0224-22-1342 FAX：0224-22-1345 E-mail：SCH-edu@city.shiroishi.miyagi.jp

大河原町（大河原教育事務所）

(1) 大河原町学校支援地域本部事業の趣旨・目的

地域全体で学校を支援する体制をつくり、地域住民の積極的な学校支援活動を通じて学校教育の充実と、住民の生涯学習機会の拡充、地域の教育力向上を目指し、家庭・地域・学校・行政による協働教育の推進を図る。



【第1回実行委員会】

(2) 大河原町学校支援事業実行委員会

(大河原町地域教育協議会)

「学校支援地域本部事業」の計画及び推進等について協議するため、大河原町学校支援事業実行委員会（以下「実行委員会」という）を設置する。大河原町ではひとつの地域本部で委託・実施していることから実行委員会と地域教育協議会を兼ねて実施する。

実行委員会が行う協議事項は ①事業全体の計画立案と評価 ②学校支援推進委員会・事務局への助言 ③地域コーディネーター及び学校支援ボランティアの養成 ④人材バンクの整備（町内全域のボランティアの募集、人材発掘） ⑤普及・啓発・広報活動（町民、関係機関・団体など）の5点について行う。また、町の教育重点施策においては「生涯学習指導者・ボランティアの育成と活用」として生涯学習推進基盤の整備を目指している。各学校においては、協働教育担当者を位置づけ、支援要請の集約やコーディネーターとの連絡調整を行っている。

(3) 成果と課題

① 成果



【昔の遊びの紹介（1年生）】

事前打合せにコーディネーターが介入したことでボランティアと学校職員双方に負担をかけずに活動に入ることができた。また、児童らの学習活動に広がりが見られ、生き生きと活動している姿を見ることができた。さらには学校支援ボランティアの方々が普段足を踏み入れることのなかった地域の学校の様子を知ることができたり、地域の子どもたちと触れ合いを持てたりしたことに、ボランティア自身が非常に高い満足感を得ることのできる活動にすることができた。

② 課題

今年度は十分にボランティア登録がなされていない状態から事業を始めたこともあり、各学校の要請に応じてその都度ボランティアを探して対応してきた。今後はさらに登録者を増やし、要請がなかった中学校での事業活用も増やしていくことが課題である。

③ 今後の事業展開について

ボランティアの効果的な募集とともに、各学校へ年間指導計画とリンクさせたボランティア活用授業のメニュー表を配布し、一層の展開を図る。また、各校には次年度教育計画への協働教育担当者の校務分掌上への明確な位置づけと協働教育担当者会議の定期的な開催について提案していく。

問い合わせ先

〒989-1295 宮城県柴田郡大河原町字新南19番地

TEL：0224-53-2758 FAX：0224-53-3818

E-mail：gakusy@town.ogawara.miyagi.jp URL：http://www.town.ogawara.miyagi.jp/

川崎町（大河原教育事務所）

(1) 川崎町学校支援地域本部事業の趣旨・目的

学校・家庭・地域・行政が一体となって子どもたちの健やかな成長を見守り、育んでいくための環境づくりが重要であり、本町においても、これまで以上に、学校・家庭・地域が一体となって、地域ぐるみで子どもたちを育てる体制を整えることが必要と考える。学校の活動に地域の協力を得ることは、学校が地域住民の活躍の場となるとともに、子どもたちの体験の機会が増え、規範意識やコミュニケーション能力の向上につながる。また、学校だけでは出来なかったことが実現し、より充実した教育活動の展開も図られる。これらのことから本事業を実施する。

(2) 川崎町学校支援事業実行委員会

(目的) 「川崎町学校支援地域本部」の計画及び運営について協議する。

(内容) 学校支援地域本部事業の企画・立案と事業の推進に関する事。町内における協働教育体制の推進に関する事。



【読み聞かせボランティア】

(3) 川崎町学校支援地域本部

(目的) 学校・家庭・地域・行政が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えるため次の事業を行う。

- ① 学校支援地域本部事業の企画・立案と運営。
- ② 学校支援ボランティアへの支援、地域コーディネーターへの助言。
- ③ 協働教育体制の推進。

(4) 成果と課題

- ① 今年度、第3次公募から本事業に取り組み、現在地域ボランティアの募集と広報に努めている。今後は、学校を対象にアンケートを実施し、ニーズを把握していく。
- ② 町の生涯学習重点施策として次の事項を掲げ、積極的に推進していく。
 - 学校教育と社会教育の連携協力から融合へ。
 - 学習ボランティアの把握と活用の促進。
 - 各学校の教育計画に「協働教育」を位置づけることで、学校と地域社会との協働体制を推進する。

問い合わせ先

〒989-1501 柴田郡川崎町大字前川字裏丁175-2

川崎町教育委員会生涯学習課（川崎町公民館内）

TEL：0224-84-2111 内線1192 FAX：0224-85-1026

E-mail：kawakyousyou@k4.dion.ne.jp URL：http://www.town.kawasaki.miyagi.jp/

大和町（仙台教育事務所）

(1) 大和町学校支援地域本部事業の趣旨・目的

「大和町生涯学習まちづくり5ヶ年計画」に盛り込まれた「協働事業」を推進するため、地域住民がボランティアとして学校教育を支援する体制整備を進め、学校教育の拡充・多様化、生涯学習社会の実現、地域の教育力の向上を図ることを目的とする。

(2) 大和町学校支援地域本部実行委員会

大和町学校支援地域本部実行委員会は「学校支援地域本部事業」の実施に伴い、学校と地域との協働体制の構築、学校教育の支援、および学校教育のさらなる充実と地域の教育力の向上に向けての協議を行う。

(3) 地域教育協議会

「大和町学校支援地域本部事業」の目的を達成するために、学区（学校）ごとに設置した「地域教育協議会」によりさらに地域に密着し、学区の特色を生かした協力体制の構築を行い事業の推進を図っている。



【第1回吉田地区地域協議会】

(4) 学校支援ボランティアの活動

大和町立吉岡小学校「昔の遊びをしよう！」

1年生の総合的な学習の時間の授業で、コマ回し、お手玉など10種類以上の昔の遊びを27



【昔の遊びをしよう！】

人のボランティアがゲストティーチャーとして指導にあたった。多目的ホール、音楽室、そして体育館の3ヶ所が会場となり、児童はスタンプラリー形式で各会場を行き来し、昔の遊びと地域の方々とのふれあいを楽しんだ。学校担当教職員は「児童は色々な遊びで、とても楽しい時間を過ごしました。たくさんの方々にいらしていただいたことで、地域に支えられていることを感じとり、将来地域を支えられる大人になってくれれば。」と学校支援ボランティアへの感謝を語った。

(5) 効果と役割

学校の要望と地域の人材を融合させる役割として期待する地域コーディネーターは、学校ごとに2人（中学校は1人）委嘱した。経歴はボランティア実践者やPTA役員経験者であるが、取組当初は事業理解度の不足や、学校と地域の調整不足により思うような活動ができなかった。

しかし、従来学校への協力体制はある程度構築されていたこと、また地域コーディネーターの地道な活動もあって、既存活動に加え新たな学校支援活動も開始されるなど徐々に事業の進展が見られた。

一方、ボランティアリスト登載者は150人以上となり、地域の人材の発掘は予想以上に進んでいると思われる。



【落合小 読み聞かせボランティア】



【鶴巣小 夢田んぼの収穫祭】

が主であったが、今後は授業補助（英語学習，児童個別対応など）の要求が増えてくることが予想され，それに対応可能な地域住民の発掘や養成が必要になってくると思われる。

(6) 成果と課題

学校支援活動はこれまで盛んに行われてきたが，近年の個人情報，児童のプライバシー保護，安全確保および保護者の意識の変化などから低調傾向にあった。

しかし，この事業に取り組むことにより，地域の意識変化はもちろんであるが，学校側の地域住民を積極的に受け入れるという体制作りが行われ，その傾向に歯止めがかかったのではないかと。一方地域住民を受け入れる中身としては総合的な学習の時間での地域学習や生産活動

問い合わせ先

〒981-3626 宮城県黒川郡大和町吉岡南二丁目4-14

宮城県大和町教育委員会 生涯学習課生涯学習班

TEL：022-345-7508 FAX：022-347-1501

E-mail：syakyo@town.taiwa.miyagi.jp URL：http://www.town.taiwa.miyagi.jp/

富谷町（仙台教育事務所）

(1) 富谷町地域と学校をつなぐ取組（学校支援地域本部事業）の趣旨・目的

社会の中でたくましく生きる子どもたちを地域全体で育むため、各中学校区に「学校支援地域本部」を設置し、地域住民が学校支援ボランティアとして学校支援活動を行う。地域と学校が協働した活動を展開することにより、地域住民同士の絆の育成、地域教育力の活性化と学校教育のさらなる充実を図る。

(2) 富谷町地域と学校をつなぐ実行委員会の役割

富谷町地域と学校をつなぐ取組の実施に伴い、地域から信頼され、地域とともに育つ「確かで魅力ある学校」の実現を目指し、地域社会と学校教育の協働による、富谷町における望ましい学校支援地域本部事業の在り方等について検討協議を行う。

協議内容は、地域社会と学校教育との協働の推進。地域と学校とのコーディネート体制の確立。富谷町における学校支援地域本部の効果的な運用方法等。その他。



【第1回富谷町地域と学校をつなぐ実行委員会】

(3) 富谷町各地区公民館における学校支援地域本部地域教育協議会

（富谷地区、富ヶ丘・日吉台地区、東向陽台地区、あけの平地区、成田地区）

地域と学校が協働し、社会の中でたくましく生きる子どもたちを地域全体で育む目的で実施する「富谷町地域と学校をつなぐ取組」の計画及び運営等について協議するため、各地区公民館に学校支援地域本部地域教育協議会を設置し、次に掲げる要項を協議している。

- 学校教育の更なる充実につながる取組の検討に関すること。
- 地域住民の知識・経験を学校教育活動に生かすための取組の検討に関すること。
- 学校を含めた中学校区における地域づくりにつながる取組の検討に関すること。
- 地域と学校とのコーディネート体制の確立に関すること。
- 事業計画の立案と運営及び事業評価に関すること。
- その他必要な事項に関すること。

年度最後の協議会では、次年度の協働教育活動計画を立てることとしている。

(4) 学校支援ボランティアの活動（富谷町立日吉台中学校）

① 活動内容：「人生の達人の話聞く会～シルバー交流事業～」

〔対象〕 富ヶ丘・日吉台地区の高齢者33名、第1学年全員86名（3クラス）

〔観点〕 世代間交流、地域交流（高齢者との共生、高齢化社会の理解）

〔内容〕 人生の達人の話聞く会『豊かな人生経験から中学生へ伝えたいこと』

（テーマ） 戦争体験、昔の遊び、職業、趣味等

中学生と高齢者の交流

② 学校教育の視点からの効果「日吉台中学校より」

本校の努力目標の一つに、家庭・地域との連携がある。現在の学校は、地域に根ざした機能を果たすことが求められている。その実際の場面として、地域の方々の学習参加を取り入れながら、教師と生徒だけでの授業に深みを持たせる場面を設けたいと検討している。その中で地域の人々、とりわけ人生の経験が豊かな方々をお招きして学習すること

は、総合的な学習の「生き方」の学習となる部分である。また、核家族化の進行により高齢者との交流も少ない生徒にとっては、相手を思いやる時間ともなる。これは、本校の福祉教育、ふるさと教育にも関わる学習にも間接的に結びつくものであると捉えており、これまで地域と交流する継続的事業として行われてきた要因と考えている。



【日吉台中 人生の達人の話を聞く会】

③ 生徒の感想

- 「私達にくださった知恵、アドバイスは、これからの長い人生に役立つものになります。」
- 「次にお会いする時もまた話を聞かせてください。その時は、アドバイスをいただいたとおり、友達をたくさんつくって連れてきます。それと、たくさん思い出をつくっているのです、ぜひほくの話も聞いてください。」

④ 教職員の感想

- 「高齢者（以後講師）と接する機会が少ない生徒にとって、人生の先輩の話やその方の経歴は新鮮に心に響いていました。」
- 「講師の方が若かったころの世の中や戦争の話などを書物やテレビ番組だけでなく、実際の生の声として聞くことは生徒にとって貴重な時間でした。」
- 「現代の中学生に「こうあってほしい。」という講師の方の願いは、学校や教師自身にとっても勉強になりました。」
- 「講師の方々の話を十分に興味関心をもって聞くためには、中学校3年間での位置づけをさらに考察しなければならないと感じました。」

(5) 効果と役割

① 地域コーディネーターの役割

- 学校支援地域本部の窓口（公民館学校支援担当）と連絡調整。計画や運営等を支援。
- 学校支援ボランティアの発掘、人材バンク整理、派遣の検討。養成（講座・研修会の企画、運営）
- 社会教育連携担当教員と公民館学校支援担当職員との効果的な連携体制づくり

② 人材バンクの状況

今年度学校支援を行った方の登録と、各地区ボランティア養成講座参加者への登録呼びかけを行っている。今年度人材バンクを整理し、来年度より本格的に活用していく予定である。

③ 学校と地域へのアプローチ

学校へのアプローチとして、各地区支援アドバイザー校長に地域教育協議会等で本取組への指導・助言をいただいている。また、町全体で開催する実践発表会へ教員も参加することで情報を共有し、年度末に学校と行う協働教育年間計画の作成へとつなげるようにしている。学校内での情報提供は、社会教育連携担当教員が積極的に行っている。

地域へのアプローチとして、公民館が学校支援地域本部となることにより、公民館講座でのボランティア養成、既存サークルとの連携等、公民館のネットワークを有効に活用し



【成田地区学校支援ボランティア募集チラシ】

ている。また、町広報、公民館だより、公民館講座案内等で取組状況を地域、町民へ伝えている。

- ④ 苦労した点（地域コーディネーターから、以下のような内容が挙げられた。）
- 今後、より多くの交流を図っていくために、たくさんの人に声かけをしていかなければならないが、学校への支援という点、それだけで敬遠されてしまうことがあり、地域の方の主体性を引き出すのはなかなか難しいところがある。
 - 学校支援ボランティアの発掘と実際の協力を得られるまでの（気軽にお願いができる体制）過程に難しさを感じる。
 - 各学校担当者との打合せ時間をつくるのが難しい。
- ⑤ 工夫した点（地域コーディネーターから、以下のような内容が挙げられた。）
- 学校担当者と十分な事前打ち合わせを持ち、担当教員から職員会議等で情報を提供してもらい、学校内での共通理解を図った。
 - 交流の機会をつなげ、積み重ねていくことで、子どもたちと地域の理解が深まるようにした。
 - 公民館でのボランティア養成講座で立ち上がったサークルと以前からボランティア活動を行っているサークルとの連携に配慮している。

⑥ ボランティアの感想

学校支援ボランティアとして活動を続け、現在富ヶ丘・日吉台地区地域コーディネーターとしてご活躍の地区長生会「日吉台宝樹会」会長の赤谷良士さんの日吉台宝樹会会報記事を紹介する。

「よりよい富谷・日吉台づくり『地域が元気になる！学校が元気になる！』ために」

宝樹会が6年前からかかわってきた、日吉台中学校との交流授業プロジェクトが拡大され、町全体の事業「地域が元気になる！学校が元気になる！」との主眼のもとで、「富谷町地域と学校をつなぐ取組」が教育委員会主導のもと平成21年4月から本格的にスタートしている。これは、「学校－公民館－地域」の結びつきをより親密に、より強固にしていき、地域住民が学校の教育活動に参加・支援することによって交流を活発化させ、それが逆に私たちにとっても自己表現や生きがいづくりにつながっていくと考えられ、積極的に参画していきたいと思う。それでは、私たちにとってこの動き、取組にどのようにかかわっていけばよいのかといえは簡単なことで、2～3の例としては、登下校中におけるあいさつ運動・交通安全指導も含まれるし、公民館で子どもたちに巣箱作りの手伝いをする、工作を教えることなどである。私たちがこれまで仕事や生活の中で身につけた技術・ノウハウ等を提供いただければよいのである。



（日吉台宝樹会会長 赤谷良士さん 宝樹会会報より）

(6) 成果と課題

① 成果

これまで、各地区公民館に学校支援地域本部を設置し、支援本部が学校からの支援依頼を受け、地域コーディネーターが学校支援ボランティアを派遣する体制を構築してきた。また、「地域と共に育つ学校」を目指し、5つの地区（富谷、富ヶ丘・日吉台、東向陽台、

あけの平、成田)それぞれの地域づくりにつながるテーマを設定し、地域と学校が協働のイメージを共有して取り組むことができた。また、富谷町教育委員会が平成18年度から取り組んでいる「学校評価システム構築事業」との連携もとりながら進んでいる。

② 課題

「地域と共に育つ学校」づくり促進のため、地域と学校、それをつなぐ公民館のネットワークをより強化しながら、地域も学校も、そして何より子どもたちがその効果を実感できる協働の実践が求められる。また、本取組を地域、学校から広く発信、町全体として共有していくことで、地域づくりへの意識を高めながら、ボランティアのネットワークを広げていくようにする。

今後の事業展開については、本事業3年目は、各地区支援本部が、各学校の協働教育年間計画をもとに支援を行い、その成果と課題を確かめながら次年度へつなげていくことができるようにする。そして、地域・学校と子どもたち、すべての人の笑顔が輝く環境づくりを進めたい。

問い合わせ先

〒981-3305 宮城県黒川郡富谷町一ノ関字臈合山6-8

富谷町教育委員会生涯学習課

TEL：022-358-5400 FAX：022-358-9159

E-mail：syogaigakusyu@town.tomiya.miyagi.jp

七ヶ浜町（仙台教育事務所）

(1) 七ヶ浜町学校支援地域本部事業の趣旨・目的

① 七ヶ浜町学校支援実行委員会の役割

目 的：学校支援地域本部の設置，提言

協議内容：協議会委員及びコーディネーターの選出，
将来の方向性など



【第1回地域教育協議会（H22.1.28）】

(2) 地域教育協議会

目 的：地域全体による学校教育の支援，協力体制
の整備

平成22年1月に第1回目の地域教育協議会が開かれた。現在は1中学校区での取組みを実施しているが，実行委員会の提言を受けて，県委託終了後には町内全体での事業推進を図るなどの方向性が話し合われた。会議には学校関係者の他，各種地域ボランティアも出席しており，支援につなげられることが予想される活動の紹介が行われた。また，今年度実際に学校教育の現場でのボランティア活動に参加した団体からは，支援活動を行った際の感想等が述べられるなど，学校と地域の情報交換の場となった。以降も各団体が活発に意見を出し合えるような場となるよう運営を図りたい。

(3) 成果と課題

① 成果

学校側の希望する講師及び協力者を発掘し，提供することができた。

② 課題

まだ整備段階にあり，スムーズな調整が図れるよう取り組んでいく。

③ 今後の事業展開について

今年度の当町での実施については，組織・体制の整備に重点を置いてきたこともあって，実際に地域ボランティアを活用した取組みは1件（1月現在）であった。来年度以降は，本格的な支援活動の実施を図るとともに，地域教育協議会などの話し合いの場を活用しながら，学校と地域の調整をスムーズに進められるよう地域コーディネーターと協力の下，推進を図る。各学校には当事業の窓口となるよう，それぞれ担当職員の推薦をいただいた。今後は，各学校の担当者との綿密な連携を取りながら，活動の実施及び計画の作成などについても協議を行っていく。



【支援活動風景（H21.12.16）】

問い合わせ先

〒985-0802 七ヶ浜町吉田浜字野山5-9

TEL：022-357-3302 FAX：022-357-2615 E-mail：cyukou@shichiganhama.com

多賀城市（仙台教育事務所）

(1) 多賀城市学校支援地域本部事業の趣旨・目的

（趣旨）学校と地域を結ぶ仕組みづくり，地域の様々な人材，能力，知恵等を学校教育に導入し，児童・生徒の健全な育成を図り，併せて市民活動の一層の充実を促進し，協働社会の構築を目指そうとするものである。

（目的）地域全体で学校を支援する体制をつくり，学校・家庭・地域が一体となって，地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えることを目的とする。

地域住民の積極的な学校支援活動を通じて教員の負担軽減を図るとともに，学校・家庭・地域・行政による協働教育の振興を図る。

(2) 多賀城市学校支援実行委員会（多賀城市学校・家庭・地域連携実行委員会）

（目的）多賀城市学校支援実行委員会は，サブタイトルを多賀城市学校・家庭地域連携実行委員会としているように，学校支援地域本部事業をはじめ，放課後子ども教室等の協働教育を全市的に推進するため構成員に市長が加わり，その効果的な事業展開を図ることを目的としているものである。

また，本市第5次総合計画まちづくり懇談会で市民から出された意見では，子どもの教育には地域の関わりが必要であり，さらなる学校，地域の連携を求める意見が出されている。このような市民の意見や協働教育にかかわる事業を推進するために，平成23年度から多賀城市第5次総合計画の重点施策として「学校・家庭・地域による教育力の向上」を掲げている。

（協議内容）実行委員会では，学校・家庭・地域連携協力の重要性や「学校支援地域本部事業」及び「放課後子ども教室推進事業」推進のための意見交換を行った。その中において，市長の標榜する市民協働のまちづくりと連携し市民協働の学校づくりとして，子どもたちを育むことが必要である。まさに，「社会による教育である。」という意見が出されるなど，積極的に取り組む意向の会議内容であった。



【多賀城市学校支援実行委員会】

(3) 東豊中学校区学校支援地域本部地域教育協議会

（目的）当学区の多賀城東小学校では，平成17，18年度にコラボスクールを実施してきたことから，ある程度ボランティアの基盤ができており，学校に事務局を置いて現在まで学区を形成する行政区の寄附により地域住民との連携事業を行っていた。

このような地盤をもとにコラボスクールボランティアから学校支援ボランティアへの移行を促し，本市のモデル的な実施として推進するものである。

地域教育協議会には，当該学校教員をはじめ学区を構成する行政区長，社会教育振興員，民生児童委員，PTA会長ほか地域リーダーが構成員となっており，各方面への事業啓発やボランティア募集への声かけなどを行っている。

また，学校支援ボランティア等に対する研修会は，地域のボランティアの利便性を考慮し，学校の協力の下，学校を会場として研修会を実施するなど地域教育協議会を核として連携を図っている。

(4) 成果と課題

① 学校支援ボランティア研修会

H22年1月13日, 15日

・講師 東北学院大学教養学部教授
水谷 修 氏

場 所 13日 多賀城東小学校
15日 大代地区公民館

参加人数 延べ64人

・講師 (有) プランニング開 平山 乾悦氏

H22年2月2日

場 所 多賀城市市民活動サポートセンター

参加人数 30人



【学校支援ボランティア研修会】

② 課題

- 今年度は、まだ学校支援活動を行っていないため、研修を受けてもコーディネーターを主体とした組織的な活動イメージができない状況であり、活動→研修→活動→研修と実際の活動を見据えた効果的かつ継続的な研修の実施が必要である。
- 全市に協働教育を推進する上で、放課後子ども教室推進事業にかかわるボランティアやコーディネーターの養成等地域人材を含んだ効率的かつ効果的な事業体系の検討が必要である。
- 学校教員の研修受講数が極めて少ない。教員の意識改革及び研修が必要である。
- 研修には実行委員会、教育協議会、ボランティア、協働教育に関心のある地区の方々の参加を可能にしている。
- 実行委員会経費とか学校支援本部経費の区分が煩雑で委託金を効率的に活用しにくい。

③ 今後の事業展開について

地域の組織は立ち上がり、市においても総合計画の重点施策として「学校・家庭・地域による教育力の向上」を位置づけ、全市に協働教育を見据えた実行委員会が設置され事業を展開する体制が整った。今後は、地域教育協議会及びコーディネーターを主体とした継続・発展的な事業運営を可能とするため、事業の理解を深めるための研修会開催や体制の強化、経費等について検討をする必要がある。

また、学校に対しては、協働教育担当を学校の校務分掌に位置づけるなど、協働教育の必要性と本事業への積極的な参画を促していきたい。

問い合わせ先

〒985-8531 多賀城市中央2丁目1-1

多賀城市教育委員会生涯学習課

TEL : 022-368-1141 内線541 FAX : 022-309-2460

E-mail : gakusyu@city.tagajo.miyagi.jp URL : <http://www.city.tagajo.miyagi.jp>

大崎市松山地区（北部教育事務所）

(1) 大崎市学校支援地域本部事業の趣旨・目的

子どもたちに多種多様な体験や経験の機会を増やし、規範意識やコミュニケーション能力の向上につながるよう努めている。また、教員がより教育活動に力を注ぐことができるようにするため、地域住民が子どもたちに対し、自らの知識や経験を生かしながら、学校と係わりを持つことで地域の教育力の向上を図る。



【松山地区学校支援地域本部実行委員会】

(2) 松山地区学校支援地域本部実行委員会

松山地区は昔から地域と学校の結びつきが強く、学校支援地域本部事業が始まる以前から、地域住民の協力を得ながら学校運営や教育活動が進められてきたが、より効果的に、かつ組織化することで、学校と地域の連携を持続的に支援していくことを目的とする。

① 協議内容

事業報告並びに決算報告・事業計画並びに予算・活動計画等

(3) 松山地区学校支援地域本部地域教育協議会

今までは「獅子躍り」などの伝統文化の継承や、「稲作教室」での関わりが多かったが、「調理実習」や「裁縫」、「書道」などの通常の学校教育の中に地域の方々が気軽に協力できるような活動を取り入れ、子どもたちとの交流を深めることを目的とする。



【松山小 わらじ作り】

(4) 学校支援ボランティアの活動

① 学校名 松山小学校

② 活動内容（行事名）わらじ作りの指導・支援 ※第5学年PTA行事（収穫祭）として実施

③ 学校教育の視点からの効果

地域住民と一緒に何かをすることで、子どもたちのコミュニケーション能力を向上させることができた。

④ 児童・生徒の感想

最初は自分で作れるか心配だったけど、大人の人に手伝ってもらって、わらじを作ることができた。とても楽しかった。

⑤ 教職員の感想

教師が教えることは難しいわらじ作りも、地域の力を借りることで子どもたちに体験させることができた。今年度、初めての事業だったが、来年度からも続けていきたい。

(5) 効果と役割

① 地域コーディネーターの役割

学校が求めるボランティアの活動内容とその意向に添ったボランティアを結ぶ。地域住民に学校支援への理解を深める。

② 人材バンクの状況

登録者は24人。登録分野は、学習指導・学校行事・環境整備（清掃）、その他

③ 学校と地域へのアプローチ

ボランティア募集のチラシの配布をする一方、地域の集まりがあると出かけて、登録を呼びかけた。

④ 苦労した点

- 今までボランティア活動をしてきた方々の、学校支援ボランティアへの取り込み。
- 学校側から直前に依頼されることもあり、適材適所のボランティアを探すのが大変だった。

⑤ 工夫した点

学校支援ボランティアを「松山すけっと隊」という親しみやすい名前にした。

⑥ ボランティアの感想

地域の先生が増えることで、学校の先生の負担が減り、地域の人と子どもたちが触れ合うことで、安心・安全な地域にすることができると思う。学習田での活動を通して、作ることの大切さを実感してもらい、将来、農業に従事する人が増えてくれればと思っている。



【通学路の清掃】

(6) 成果と課題

① 成果

ボランティアの方々は、職業や趣味などの生活体験で積み上げてきた知識や技能を活かすことにより、生きがいや喜びを見つけることができた。子どもたちは地域の人たちとの関わる中でコミュニケーション能力が培われた。



【持久走大会 見守りボランティア】

② 課題

本事業は多忙な教員を支援し、勤務の負担を軽減させることが目的だが、実際には協働教育をするための事前準備や打合せなどがあり、勤務の負担を軽減させることが出来なかった。

③ 今後の事業展開について

既存の組織や団体を取り込み、ボランティア登録者を増やしていきたい。

問い合わせ先

〒989-6492 大崎市岩出山字船場21

大崎市教育委員会生涯学習課

TEL：0229-72-5035 FAX：0229-72-4004 E-mail：ed-shogaku@city.osaki.miyagi.jp

色麻町（北部教育事務所）

(1) 色麻町学校支援地域本部事業の趣旨・目的

地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進しながら、地域住民と児童・生徒との交流を通して地域の教育力の向上を図る。

(2) 色麻町協働のまちづくり実行委員会

学校が特色を生かし、豊かで多様な教育を行っていくためには、学校の色々な教育活動に地域住民の協力を得ることが必要である。学校支援ボランティア活動の円滑な運営を図るために、「色麻町協働のまちづくり実行委員会」を設置している。

目的は、学校・家庭・地域がそれぞれの適切な役割を担いつつ、社会教育、児童福祉、社会福祉、文化、ボランティア等の関連団体が互いに連携し地域教育力を再生することである。

実行委員会は、各小中学校、PTA、教育委員会、団体代表等で構成され、地域の色々な課題に取り組みながら知恵を出し合い、学校支援ボランティアの推進、ネットワーク化などについて話し合い、学校支援地域本部事業を総合的に推進している。

(3) 色麻町学校支援地域本部

地域全体で学校教育を支援するため、学校と地域との連携体制の構築を図り、多様な形態のボランティア支援の手法を探り、地域教育力の向上を図る。

目的は、学校の教育活動について、地域の中で意欲のある方をボランティアとして登録し、学校支援に協力いただき、学校教育の充実と地域の教育力を高める。

(4) 学校支援ボランティアの活動

① 学校名…色麻中学校、色麻小学校、清水小学校

② 活動内容（行事名）

花いっぱい運動、校外指導引率、ウォーキングパトロール隊、学習発表会の事前音楽指導、裁縫の指導、えごま栽培、学習発表会の舞台衣装製作、学習発表会の演技指導、家庭科指導「布で作ってみよう」、ミシンを使ってみよう、干し柿づくり、音楽指導、図書整理、米作りなど

③ 学校教育の視点からの効果

特色ある教育、特色ある学校づくりを推進することができている。

④ 児童・生徒の感想

「わかりやすく教えてもらったので、上手に縫えた。」

⑤ 教職員の感想

学校支援ボランティアの専門的な知識や技能を活かした授業をつくることができている。



【家庭科指導 布で作ってみよう】



【米作り】

(5) 効果と役割

① 地域コーディネーターの役割

学校のニーズ調査、ボランティアとの連絡調整、学校のニーズとボランティア支援のマッチング。

② 人材バンクの状況

人材バンクリスト（※非公開・パソコン管理）に登録を行っている。随時更新し、学校にデータ送付している。

（登録項目数）環境整備支援…8 教育活動支援…37 安全整備支援…4

（登録者内訳）男27名 女55名 計82名

③ 学校と地域へのアプローチ

■ 全戸にボランティア案内を配布し、登録を呼びかけているほか、活動は町広報紙に掲載し事業のPRに努めている。研修会等を開催し、町民への理解を深めている。

また、活動は、学校にとっては特色ある教育、新しい視点から学習の課題を見つたり、新たな発想や工夫をもたらすことができるようコーディネーターが学校や地域と情報を密にしながら事業を進めている。

④ 苦勞した点

■ ボランティアとして、登録した内容と学校のニーズが合致していない場合の対応が必要。

■ 日頃から学校の教育活動のなかで、どのような学校支援ボランティアのニーズがあるか把握することや地域人材の発掘、人材情報の収集に努めている。

⑤ 工夫した点

■ ボランティアが学校に行くのが楽しいと思えるような雰囲気づくりをしている。また、学校では、感謝の会を開き、子どもたちからボランティアに対し感謝の言葉が述べられるなど、子どもたちとボランティアの交流も図っている。

⑥ ボランティアの感想

■ ボランティアの活動を通じて視野が広がり、ボランティア活動に生きがいを感じる方が増えた。

「子どもが教えたとおりにやってくれて嬉しかった。これからも、私にできることで協力したい。」

(6) 成果と課題

① 成果

■ 地域住民は、様々な活動をとおして、学校に対する理解が深まり、自らの学びを活かす場になっている。

② 課題

■ 事前の打合せ時間の確保。

■ 学校支援ボランティアの資質向上のための研修会が必要。

・学校の教育目標や教育計画等への理解。 ・個人情報取り扱い。

■ 学校の受入体制

③ 今後の事業展開について

「色麻町社会教育主事」の設置

町内小中学校の教諭で「社会教育主事」の資格を有する教員を町教育委員会独自に「色麻町社会教育主事」として委嘱。主な業務内容としては、次のとおり。

・学校と家庭及び地域住民との連携協力に関すること ・学校内のニーズの取りまとめ
・地域のコーディネーターや地域本部、教育委員会との連絡調整

問い合わせ先

〒981-4102 宮城県加美郡色麻町四竈字北谷地142番地

TEL：0229-65-3110 FAX：0229-65-3109

E-mail：shakai@town.shikama.miyagi.jp URL：http://www.town.shikama.miyagi.jp/

栗原市瀬峰地区（北部教育事務所栗原地域事務所）

(1) 栗原市学校支援地域本部事業の趣旨・目的

子どもたちをすこやかに育むために、学校と地域が連携・協力する場を学校教育活動に位置付け、地域住民による積極的な学校支援活動を促進する。これにより、学校教育の一層の充実を図るとともに、地域社会全体の教育力の向上を図り、それに伴う生涯学習社会の形成を目指すものである。



【栗原市学校支援地域本部実行委員会】

(2) 栗原市学校支援地域本部事業実行委員会

実践を踏まえ、豊かな学校教育活動を展開するための学校支援の在り方について、教育計画への位置付け、地域人材活用の手法、市域全体への普及等を検討する。

(3) 瀬峰地域教育協議会

実践報告と、学校支援ボランティア活動のスケジュールを調整。相互に活動の見通しや具体化を図るだけでなく、学校側から教育内容や児童生徒の変容等の情報が発信されることによって、地域による学校理解が一段と深まっている。

(4) 学校支援ボランティアの活動



【1学年生活科「秋の宝物さがし」】

- ① 学校名：栗原市立瀬峰小学校
- ② 活動内容：1学年生活科「秋の宝物さがし」校外学習
引率支援
- ③ 学校教育の視点からの効果

個々の児童に対する指導、助言の中心は教員の専門性や教材研究によって行われる一方で、活動場所は地域住民にとって慣れ親しんでいるものであることから、児童に秋の自然の事象を気付かせるのに効果的な助言が行えた。

また、大人の目を複数配置することによって、安全管理の面からも有効であった。

④ 児童・生徒の感想

「木の実がどこに落ちているのか教えてもらったのでよかった。」

「葉っぱで笛を作ってもらったりして楽しかった。」

⑤ 教職員の感想

「安心して活動できた。」

「このような支援をしていただくことは、本当にありがたい。」

(5) 効果と役割

地域コーディネーターが学校と地域住民の“架け橋”となって活動することによって、地域住民が学校に出向く際に感じていた緊張感が和らぐようになった。地域の連携性は高まりつつあり、学校が個々の住民に連絡を行わなくても、地域コーディネーターの調整のもとで住民同士が連絡を取り合い、活動を形成している。



【ジャングルジム「ペンキ塗り」】

瀬峰地区では98名がボランティア登録しており、総合調整役である地域コーディネーターの存在意義は大きい。ボランティアからの信頼も厚く、そのおかげで支援活動に楽しんで取り組むことができるという声が多い。



【折り紙指導】



【職場体験】

(6) 成果と課題

① 成果

- 地域住民が学校をより身近に感じて支援する体制が整ってきた。
- 自分たちができることを子どもたちのために役立てたいという意識が高まった。
- 実施学校の教育計画に本事業が位置付けられ、地域との連携が促進された。

② 課題

- 各教科等年間指導計画にボランティア活用の目的やボランティアとの役割活用の分担分担を明記するには、今後の取組の積み重ねが必要である。

③ 今後の事業展開

活動が真に定着するように学校と地域の連携・協力を促進するとともに、「栗原市協働教育推進事業」を本事業と連動して展開する。

問い合わせ先

〒989-5171 宮城県栗原市金成沢辺町沖200番地

栗原市教育委員会社会教育課

TEL：0228-42-3514 FAX：0228-42-3518 E-mail：shakaikyoiku@kuriharacity.jp

登米市東和地区（東部教育事務所登米地域事務所）

(1) 登米市学校支援地域本部事業の趣旨並びに目的

教育環境は目まぐるしい変化の中にあり、これに伴い教員の指導内容も複雑・多様化し、生徒との「心の通った触れ合い」の時間が少なくなっている。また、核家族化や児童・生徒数の減少が社会的な問題となっている。さらに、家庭や学校は地域との交流が希薄になり、地域特有の伝統文化が失われるとの声もある。このような現状を踏まえ、地域と学校をつなぐ仕組みをつくり、社会の中でたくましく生きる子どもたちを地域全体ではぐくむため、東和中学校区の中学校1校、小学校3校を対象にした「学校支援ボランティア」を募り、青少年の健全な育成や学力向上を図るシステムを再構築することを目的に本事業を実施する。

(2) 登米市学校支援地域本部実行委員会

- 効果的な事業展開を図るため、学校支援事業の企画及び実施
- 学校支援ボランティアの募集・研修
- 事業評価と反省
- 町内小学校への普及啓発活動等
- コーディネーターの委嘱・養成



【登米市学校支援地域本部実行委員】

(3) 登米市東和地区学校支援地域本部地域教育支援協議会

- 学校支援活動のサポート
- 学校とボランティア間との円滑な関係保持
- 地域コーディネーターとの情報共有と支援
- ボランティア活動の協力・支援
- 広報活動・人材バンクの管理

初年度は中学校を対象として学校支援ボランティアバンクの作成のため、学校側担当教員と共に必要なニーズや支援の仕方について協議した。その結果を踏まえ、学校行事や年間計画に活用してもらうようお願いしている。2年目以降については、活動範囲を小学校まで広げて活動を推進している。最近では、ボランティアからの意見や要望、活動後の感想等も寄せられている。

(4) 学校支援ボランティアの活動



【東和中 キャリアセミナー】

- ① 登米市立東和中学校
- ② 東和中キャリアセミナー
- ③ 学校教育の視点からの効果

多くの職種の方々との出会い、話合いを通じて、生徒一人一人に自らの生き方を考えさせ、将来に対する目的意識を持たせ、主体的に自己の進路を選択決定しようとする意欲や態度を育成することができる。

④ 児童・生徒の感想

「講師の先生の職業が、今までは遠い存在だと思っていましたが、お話を聞き理解することができ、考え方やいろいろなことが勉強になりました。新しいことを聞くことができ

て、とてもよかったです。』

⑤ 教職員の感想

「多くの学習成果を得ることができ、生徒にとって将来の進路を考える上で良い経験になった。」

(5) 効果と役割

① 地域コーディネーターの役割

- 学校とボランティアの連絡調整
- ボランティアの人材の発掘とボランティアバンクの作成
- 学校、地域、保護者等への広報・募集活動
- 学校支援地域本部の運営と庶務

② 人材バンクの状況

- 登録者数 延べ 114人（実人数 88人）



【持久走大会 安全指導】

(6) 成果と課題

① 成果

学校支援ボランティアの要請が増えてきている。



【東和中 起業教育「竹とんぼづくり」】

② 課題

- 学校側との情報共有の必要性と理解。
- ボランティアに登録してもらっても登録の種類によって需要がない場合。
- 委託事業終了後の学校支援本部のあり方。

③ 今後の事業展開について

今後事業を展開していく上で、予算と人材の確保に不安を感じている。

問い合わせ先

〒987-0903 登米市東和町錦織字雷神山15-3 東和勤労青少年ホーム内
TEL/FAX : 0220-53-3003 E-mail : kinrou-towa@almond.ocn.ne.jp

4 協働教育の定着のための方向性

近年、家庭や地域の教育力の低下などが指摘される中、本県では、国の動きに先駆けて、平成17年度から4か年の期限を設定し、「みやぎらしい協働教育推進事業」に取り組み、社会の中でたくましく生きる子どもたちを地域全体で育むために、地域と学校をつなぐ仕組みをつくり、協働した教育活動を展開する中で、地域教育力の向上と学校教育の充実を目指している。

平成20年度からは新たに文部科学省「学校支援地域本部事業」委託事業を受け、13市町17本部で実践している。この事業実施委託要綱の趣旨には、「地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進することにより、教員や地域の大人が子どもと向き合う時間が増加し、さらに地域住民等の学習成果の活用機会の拡充及び地域の教育力の活性化を図る。」とある。本県においては、「学校支援地域本部事業」は、協働教育の一形態として捉え、行政が下支えする「みやぎらしい協働教育推進事業」として推進している。

本事業の実施市町では、行政として公の方針や施策に協働教育を掲げ、各小中学校では、教育目標や教育計画に協働教育を位置づけている。児童生徒に対しての、「体験活動の充実、規範意識の醸成、コミュニケーション能力の向上等」といった学校教育の充実に繋がる成果が報告されている。

地域住民にとっては、「地域住民のこれまで培ってきた知識、技能の発表の場、学校への理解・共感・関心を深める機会等」といったこれまでの成果に加え、「地域住民の主体的な参画」を可能にした取組が実践されてきている。

本年度実施した市町村における成果と課題については、以下のとおりである。

【成果について】

① 充実した学習環境の整備と地域の活性化

学習支援ボランティアによる学習支援活動や学校行事支援等の多様な経験をとおして、子どもたちは地域の大人とふれ合う機会が増え、様々な学習機会が創出されることにより、学習環境の整備が図られた。

② 学校と地域の連携の高まり

地域住民が学んできた知識や技能を生かす場が広がり、生きがいづくりにつながっている。この活動を通して地域・家庭及び学校の結び付きが深まり、「地域の子どもは地域で育てる」という機運が高まった。

学校では、学習環境の充実と児童生徒の学力の向上が図られ、「地域に根ざした学校」づくりが推進された。

③ 協働教育推進組織の機能の高まり

各実施市町においては、協働教育を安定的・継続的に推進していくために、公の方針や施策に協働教育を掲げている。各小中学校では、それを受けて教育目標や教育計画に協働教育を位置づけて教育を推進している。

【課題について】

① 組織の活性化

学校支援地域本部実行委員には、それぞれの地域の特性に合わせて、PTA組織をはじめ地域、公民館、社会教育団体関係者等で組織して広く意見を求め「学校が本当に必要としている支援は何か」「地域の教育力の向上につながるか」等のことを検証しながら効率的な

運営の在り方を図っていく必要がある。

② 研修の充実

「学校支援地域本部事業」を安定的・継続的に推進するために、地域コーディネーター、学校コーディネーター、学校支援ボランティアの養成を図る各種研修会を市町村レベルで、積極的に開催して学校のニーズに応じた人材の育成や創出を図ることが必要である。

③ 学校に対する啓発

地域社会からの支援や学校ボランティア導入については、おおむね肯定的であるが、受け入れにあたり、学校側からは「会議が増える」「業務が増える」など否定的な意見もある。

■ 学校の教育活動の充実

新たな連携協力の仕組みを構築して実践する「学校支援地域本部事業」では、これまでの組織を改善しながら、地域の実情にあったより良いものへと進化させる必要がある。

■ 学校教育目標の「開かれた学校」の具現化

地域に開かれた学校づくりの観点からも、様々な分野からの協力を得ながら教育活動に取り組み、地域の方々をはじめ多くの方々から学校の実情等を理解していただきながら推進しなければならない。

■ 地域教育力の向上

本事業の期待される効果は学校にとどまらず地域の教育力の向上や活性化といった、幅広いものであることから、学校・地域の方が参加する研修会をとおして、本事業の主旨や期待される効果等の理解をさらに図らなければならない。

以上のような成果と課題を踏まえ、県として、さらに一歩進んだ安定的、継続的な協働教育の構築を図るために以下のような支援を実施する。

【協働教育の定着のために】

① 協働教育推進のための啓発

■ 協働教育実践市町訪問を行い、委託事業終了後も実施市町村の実態に応じた形で事業が継続して実施できる体制の構築やその課題解決のための支援・指導を実施する。

② 研修の充実

■ 各実施市町と連携し各種養成講座や研修会を開催し、地域コーディネーター、学校コーディネーター、学校支援ボランティア研修会の講師選定や会議の進め方等の支援・指導を実施し学校や地域のニーズに応じた人材の創出や発掘を図る。また、教員を対象とした研修プログラム（初任者研修、5年経過研修、10年経過研修）に協働教育の講座を開設する。

③ 情報の収集と提供

■ 委託実施市町やモデル実践校以外への推進を図るため、各種研修会において本事業の利点を紹介し教員や地域住民の理解を図る。また、学校の教育計画に地域の力を採り入れるため先進事例の手法を参考にし、当該校の実態に応じたカリキュラムづくりの開発を支援する。

本事業についての理解と協力を得るため県広報、各種研修会及びホームページ等により事業の啓発を行い事業の振興を図る。

5 資料編

○「学校支援地域本部事業」活用の利点

1 学校教育の視点から

- (1) 教員の子どもと向き合う時間の拡充（教員の負担軽減）
- (2) 学校外の教育力を活用した学校教育の更なる充実
 - 生きる力「確かな学力、豊かな人間性、健康・体力」の育成
（学習指導の充実，教職員の研修の充実，豊かな体験活動の展開，スポーツ・文化等）
 - 子どもの安全確保，環境整備 e t c .

2 生涯学習・社会教育の視点から

- (1) 地域教育力の活性化
- (2) 生涯学習・社会教育で学んだ成果を生かす場の拡充（スポーツ，文化等も含む）

3 地域と学校をつなぐ協働教育の視点から

- (1) 協働教育推進の核となる，地域と学校をつなぐ仕組みの構築

4 本事業推進の特長

- (1) 事業費は全額国庫負担である。（平成20年度実施市町村のみ3年間継続できる）
- (2) 地域コーディネーターによる学校・教員のためのサポートが，学校教育を充実していくための環境整備となる。
- (3) 学校・教員に新たな負担はかからない。
 - ※ 本事業を実施するにあたり，学校に対して新たな事業の実施や，教育課程の組み換えなどの縛りはない。学校が必要とする学校支援を，「学校支援地域本部」に依頼をし，協力をもろうというスキームである。

【市町村からのQ】

生涯学習・社会教育サイドでは事業実施意向であるが学校・学校教育行政が負担増を理由に理解を示してくれないのだが…。

→ A：事業趣旨の理解不足，学校等の負担軽減するための事業

- (4) 各市町村に設置されている人材バンクの再構築ができる。（社会教育にも役立つ）
- (5) 社会教育職員の負担の手助けにもなる（常駐可能な地域コーディネーターの配置）

【市町村からのQ】

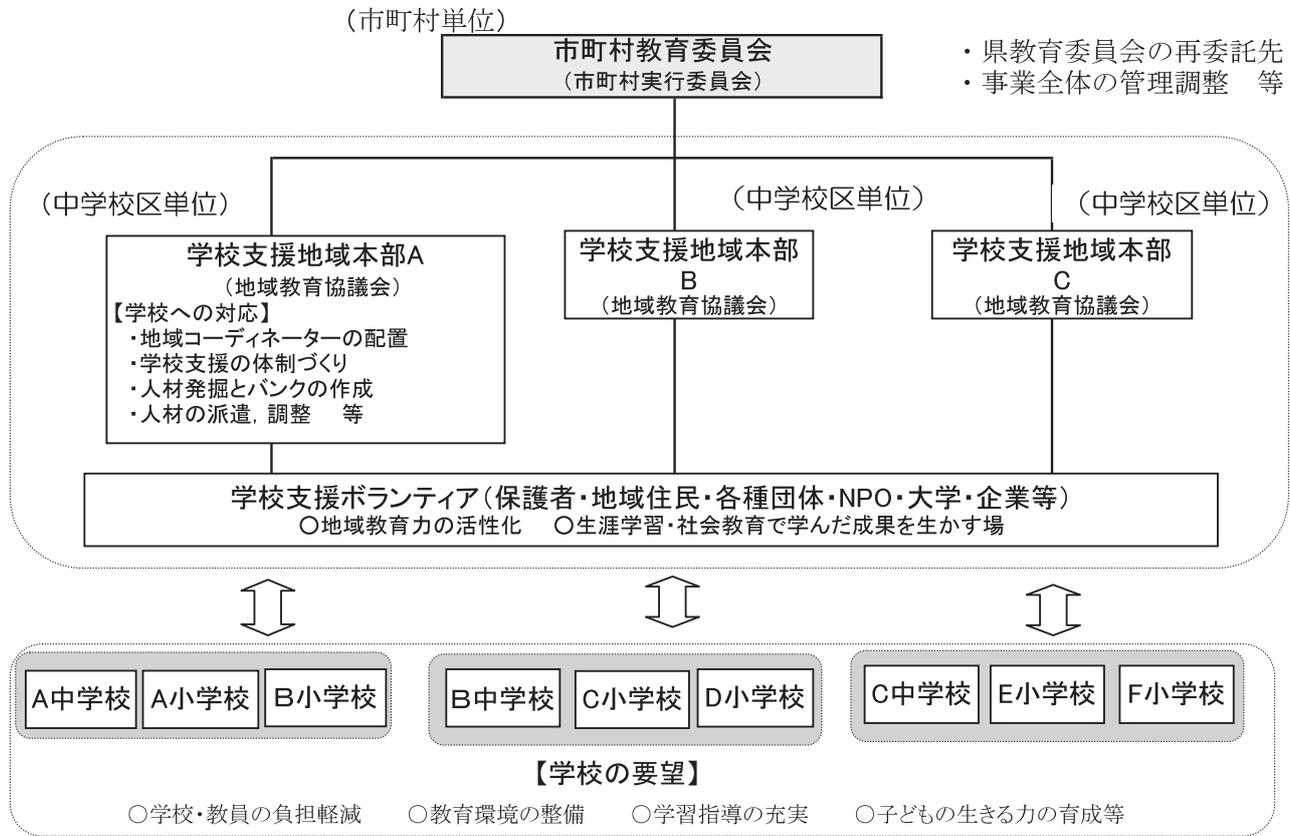
事業趣旨からみると事業実施したいが，社会教育担当者の負担増を考えると実施の決断ができないのだが…。

→ A：本事業のコーディネーター活用の工夫により社会教育担当者の負担軽減が可能

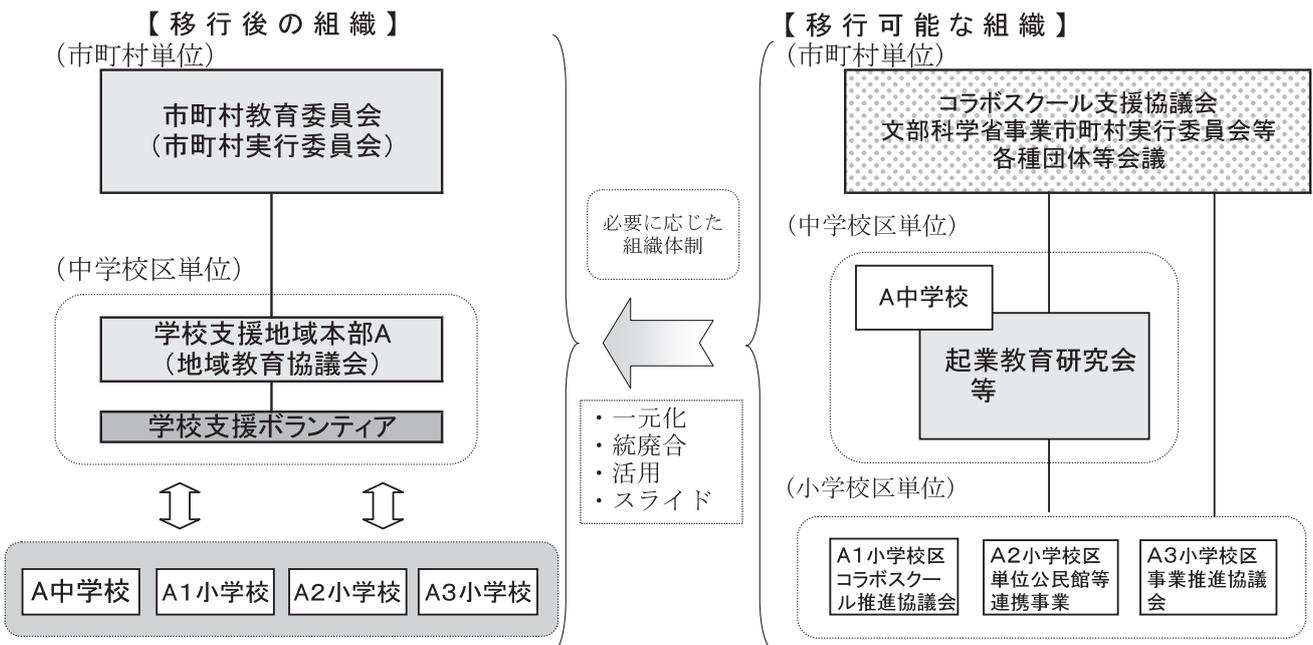
- (6) 既存の事業推進組織と兼ねることができる。
- (7) 他事業の取組みと一緒に実施することでその効果が上がる。

○学校支援地域本部における既存組織の活用例

〔基本例〕



〔既存組織の活用例〕



* 組織づくりは、先ずはできるところから、できる範囲で進めていくことが肝要です。

○宮城県地域と学校をつなぐコーディネーター養成研修

講演資料 講師 木村清一 氏

学校・地域の協働による地域の教育力の向上を目指して —学校支援ボランティアへの期待—

1 地域の教育力の低下

(1) 子どもを取り巻く環境の変化

- 都市化, 核家族化, 情報社会の進展, 個人主義的傾向の浸透など
- 遊びの変化 外から家に, 集団から個に, 異年齢から同年齢に
- 直接体験の不足 (自然体験, 集団体験, 社会貢献体験, 勤労体験, 生活体験, 創作体験)

(2) 地域の教育力に対する認識 (保護者)

① 地域の教育力について

「以前に比べて低い」	56.6%
「以前と変わらない」	15.1%
「以前に比べて向上している」	5.2%

② 地域の教育力の低下要因

「個人主義が浸透してきているので」	56.1%
-------------------	-------

③ 地域において力を入れるべきこと

「子どもの安全を確保するための活動」	66.9%
「歴史や文化, 自然を体験したり学ぶ機会を増やす」	36.3%

この調査では, 「地域全体で子どもを育て・守る雰囲気やしぐみを生み出す力を, 「地域の教育力」と規定している。

地域への保護者の期待は大きい, 自分自身は地域に関わらず, 他人任せ, 学校任せの傾向が見られる。(日本総合研究所「地域の教育力に関する実態調査」平成18年)

2 地域の教育力

「地域の教育力とは家庭と学校ができない教育である。それは一言でいうと世間教育である。人間が一人前になっていくとき地域が用意した一人前のシステムである。一つは, かつての若者宿や今の通学合宿などの通過儀礼がある。若者たちだけで自立した集団生活をし自治能力を身につける。もう一つは, 子どもは地域の宝という発想から子どもの成長を地域のみんなで世話する。子どもに地域の文化を伝える。」(伊藤俊夫編「生涯学習・社会教育実践用語解説」明石要一)

3 地域の教育力向上の視点

(1) 地域全体での子育て「支え合い」(共同)

(2) 地域の課題解決は地域自身の手で「助け合い」(共生)

(3) 家庭や地域の教育力と学校教育の効果的な連携「つながり合い」(共育)

(中央教育審議会中間報告「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」平成19年)

4 学校支援ボランティアへの期待

(1) 学校支援ボランティアへの期待

「学校がその教育活動を展開するにあたっては、もっと地域の教育力を生かしたり、家庭や地域社会の支援を受け入れることに積極的であってほしいと考える。」（中央教育審議会答申「21世紀におけるわが国の教育の在り方について」平成8年）

「木更津市教育委員会で平成10年度からはじめた学校支援ボランティア推進事業は、開かれた学校を実現するための一方策として教育委員会が制度的に位置付けて、財政面の措置を講じながら市内の全ての学校でこれを推進しようとする試みである。

（明石要一編「それいけ！学校支援ボランティア」西村堯）

(2) 学校支援ボランティア実施例

● 千葉県木更津市立八幡台小学校 平成18年度登録者数 85名

教育活動支援（読み聞かせ，ミシン操作，調理実習，合唱部指導，算数，水泳，昔遊び，川遊び，竹細工，英語指導補助など）

環境整備支援（図書整理，理科備品整備，飾りつけなど）

安全支援（登下校時のパトロール）

● 北海道帯広市立啓北小学校

教科の学習サポート

1年 生活科「昔の遊び」 2年 生活科「花の観察」

3年 総合学習「イモ団子づくり」

4年 社会科「アイヌの生活」 5年 家庭科「郷土の料理」

5年 音楽科「合奏」 6年 国語科「毛筆」

6年 社会科「世界の人々」

教育環境サポート

「ふるさと農園活動」，「花壇づくり」，「家庭科教室清掃」，「外物置場改装」，「トイレ清掃」

● 宇都宮市立陽東小学校

宇都宮市教育委員会「街の先生」に登録し，構内に「ボランティア室」を設け，週1回，図書整理，掲示物，花壇整備，家庭科や算数の指導補助や教材づくりなどを行っている。

● 高知大学教育学部教員養成課程

2005年にボランティア組織「高知子どもを守り隊」を結成し，下校時時に通学路の巡回を行っている。

● 宮城県色麻町

学校の花壇づくり，学校行事への協力，通学路パトロールなど

(3) 学校支援ボランティアのタイプ

- ① 学習環境支援
- ② 教育活動支援
- ③ 学校外学習活動支援
- ④ 学安全支援

(4) 学校支援ボランティア導入のメリット

（学校にとって）

- ① 地域社会と学校の協働による開かれた学校づくり

- ② 学校と住民の相互理解の深まり
- ③ 住民や各種団体・NPOが持っている個性的で多様な指導法

(児童・生徒にとって)

- ① 多様な体験活動との出会い
- ② 意味ある他者との出会い
- ③ ボランティア活動への理解

(地域社会にとって)

- ① 開かれた学校づくりへの参加意識を高める。
- ② 「学び」の社会還元
- ③ ボランティア動を縁に新しい人間関係が形成される。

(参考)

北海道帯広市立啓北小学校の成果

- ④ 学校が開かれ、教育活動が活性化してきた。
- ⑤ 高い専門性により、子どもたちが学習意欲が高まった。
- ⑥ 挨拶やコミュニケーションが増え、地域との交流が深まった。

(5) 学校援ボランティア活動を豊かにする為に

<ボランティア>

- ① 当該学校の教育目標や学校の仕組みを理解する。
- ② 地域やボランティアの実態に合う活動を行う。
- ③ 当該学校の教職員と人間関係を大切にする。

<学校>

- ① ボランティア活動について理解を深める。
- ② 学校のボランティア・ニーズを明らかにする。
学校行事、部活動、各教科等を分析し、ボランティアの協力を得ることで、より一層の教育効果が期待できる内容をボランティアに依頼する。
- ③ ボランティアの受入れ体制を整備する。

(参考1) 木更津市八幡台小学校の例

学社連携担当(教頭, 教務主任) → 学校支援ボランティア担当 → 教師リーダー(学校で依頼する活動内容毎に担当者を配置, 一人一役) → ボランティアリーダー → ボランティア学校支援ボランティア・コーディネーター → 学校やボランティアとの連絡調整

(参考2) 北海道帯広市啓北小学校の例

校内に地域ネットワーク委員会(校長, 教頭, 教務主任, コーディネーター3名)を設置, 学校支援ボランティアの運営を行っている。

コーディネーターは校務分掌に位置づけている。

校内にボランティアルームを設置し, 事務局の役割を担っている。

<行政>

- ① 学校支援ボランティアの養成と参加奨励

- ② 地域を結ぶコーディネーターの養成と配置
- ③ 義務教育課と社会教育課との連携

<地域社会>

- ① ボランティア活動への理解と参加奨励
- ② 各種団体、グループ、NPO、施設などの連携
- ③ 地域における社会教育事業の活性化

(参考)

北海道帯広市啓北小学校の課題

- ① 校長がリーダーシップを発揮し、率先垂範して仕組みづくりを進める。
- ② コーディーターやボランティアを発掘・養成し、協働体制をつくる。
- ③ 積極的に情報を発信し、新たな価値をつくる。
- ④ 活動成果を検証し、改善を図る。

5 学校支援ボランティア・地域コーディネーターの役割

(1) 学校のボランティアニーズと個人やグループのボランティアニーズを結ぶ。(調整役)

- ① 学校が求めるボランティアと地域の人たちやグループ、各種施設を結ぶ。
- ② 学校の求めに応じられるように人材情報を蓄積する。
- ③ 活動がスムーズに展開されるために、学校やボランティアの意思疎通を図るための調整者となる。

(参考)

地域のボランティアを学校に受け入れることについて、教員は次のような課題を挙げている。

- ① ボランティアと意思疎通が図れるか？
- ② 児童生徒、教員の個人情報厳守されるか？
- ③ ボランティアとの事前打ち合わせの時間の確保が難しい？
- ④ 教員より知識や指導技術が豊富なボランティアへの対応が難しい？
- ⑤ 部活動の場合、顧問とボランティアの考え方に違いがあった場合の対応が難しいのでは？

(2) 地域の教育資源（人、施設、自然、文化、行事など）に関する情報の収集と求めに応じ学校に提供する。

(3) 「学校支援ボランティア」について理解を深めるための、住民・ボランティアを対象とした学習機会を企画する。

(4) ボランティア活動についての基礎的な知識・技術などについて地域の人たちが学習する機会をつくる。

(5) ボランティアが快適に活動できる環境づくりを教育委員会や学校に提案する。

(6) 学校支援ボランティアの活動状況を地域に知らせる。

6 学校支援ボランティア・学校コーディネーターの役割

- (1) ボランティア・ニーズの集約と学校内の調整
- (2) 地域コーディネーターとの調整
- (3) 学校支援ボランティアについて、教職員の理解を得るための研修の企画やボランティアとの交流会の企画
- (4) PTAとの調整

7 学校支援地域本部への期待（展望）

- (1) 学校と地域を結ぶ架け橋
- (2) 公民館や各種施設等で学習した成果を、社会に還元したい住民を支援する役割
- (3) 地域に存在する青少年の教育に関わる各種団体・グループ・NPO・各種施設等を結ぶ役割
- (4) 地域の子どもたちの教育について、地域住民が考え、計画し、行動するための中核となる役割

※木村清一（日本ボランティア学習協会常任理事，桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部客員教授，全国体験活動ボランティア活動支援センター・コーディネーター）

平成21年度文部科学省委託事業 学校支援地域本部事業実践事例集

発行日：平成22年3月31日

担 当：宮城県教育庁生涯学習課協働教育班

住 所：980-8423 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8-1

電 話：022-211-3690 Fax：022-211-3697

みやぎらしい協働教育ホームページへのアクセスは下記から

URL：<http://www.pref.miyagi.jp/syougaku/kyodo>